

薬剤部 DI ニュース

男性に避妊が必要な薬剤について

男性が使用した薬剤の影響について理論的には、薬剤の影響を受けた精子は受精能力を失うか、受精してもその卵は着床しなかったり、妊娠早期に流産として消失します。出生にいたる可能性があるとするれば、染色体異常か遺伝子レベルの異常で、いわゆる催奇形性のような形態的な異常は発生しません。精子形成期間はおよそ 74 日(±4~5日)といわれており、受精の1~2日前に服用した薬剤の影響はむしろ考えられません。影響がある薬剤については、男性側の避妊は薬の服用期間中だけでなく、服用中止後3ヵ月から薬剤によっては6ヵ月間続ける必要があります。

男性側に投与された薬剤の影響に関するデータはほとんどないのが現状です。女性側と異なり、抗癌剤でさえ、胎児に及ぼす影響はほとんどないと考えられていますが、抗ウイルス薬のリバビリンのように、精液中への移行が否定できない薬剤もあるため、男性側での影響が指摘されている薬剤については、慎重に対応する必要があるといわれています。

商品名	治療剤	当院採用	内容
ボトックス注	A 型ボツリヌス毒素製剤	×	男性は、投与中及び最終投与後少なくとも3ヵ月は避妊する。
チガソンプセル	角化症治療剤	×	男性に投与する場合には、投与中及び投与中止後少なくとも6ヵ月間は避妊させること
コルヒチン錠	痛風治療剤	×	父親が本剤を服用した場合、その配偶者より、ダウン症候群及びその他の先天異常児が出生する可能性があるとの報告がある。
イムラン錠	免疫抑制剤	×	本剤投与中の患者には男女共に避妊を行わせること。
アラバ錠	抗リウマチ剤	×	男性に投与する場合には、投与期間中避妊するよう注意を与えること
リウマトリウマトレックスカプセル	抗リウマチ剤		男性に投与する場合は、投与中及び投与終了後少なくとも3ヵ月間は配偶者が妊娠を避けるよう注意を与えること
アラノジー静注用	抗悪性腫瘍剤	×	本剤の性腺に対する影響については不明であるが、類薬では動物実験において精巣毒性が認められているので、小児及び生殖可能な年齢の患者に投与する必要がある場合には、性腺に対する影響を考慮すること

フルダラ錠 フルダラ静注用	抗悪性腫瘍剤	×	生殖可能な年齢の患者に投与する場合には、性腺に対する影響を考慮すること
アムノレイク錠	再発・難治性急性前骨髄球性白血病治療剤	×	男性に投与する場合には、投与中及び投与終了後6か月間は避妊させること
トリセノックス注	再発・難治性急性前骨髄球性白血病治療剤	×	男性患者の使用に際しては、投与期間中及び最終投与後少なくとも3ヵ月は避妊させること
ゼヴァリン イットリウム (⁹⁰ Y) 静注用セット	抗悪性腫瘍剤	×	妊娠する可能性のある女性患者及びパートナーが妊娠する可能性のある男性患者に投与する場合には、投与後12ヶ月間は避妊させること
サレドカプセル	抗多発性骨髄腫剤	×	本剤は精液中へ移行することから、男性患者に投与する際は、投与開始から投与終了8週間後まで、性交渉を行う場合は極めて有効な避妊法の実施を徹底(男性は必ずコンドームを着用)させ、避妊を遵守していることを十分に確認すること。また、この期間中は妊婦との性交渉を行わないこと
ゼヴァリン インジウム (¹¹¹ In) 静注用セット	放射性医薬品	×	妊娠する可能性のある女性患者及びパートナーが妊娠する可能性のある男性患者に投与する場合には、投与後12ヶ月間は避妊させること
グリセオフルピン	内服白癬治療剤	×	本剤投与中の患者には避妊をさせること。また、少なくとも投与中止後、婦人では1ヵ月間、男性では6ヵ月間は避妊をさせること
デノシン点滴静注用	抗サイトメガロウイルス化学療法剤		妊娠の可能性のある女性は投与期間中、また、男性は投与期間中及び投与後90日間は有効な避妊を行わせること
バリキサ錠	抗サイトメガロウイルス化学療法剤	×	妊娠の可能性のある女性は投与期間中、男性は投与期間中及び投与後90日間は有効な避妊を行わせること
レベトールカプセル コペガス錠	抗ウイルス剤		投与中及び投与終了後6ヵ月間は本剤が子宮内へ移行しないようにコンドームを使用するよう指導すること